

保健医療体制の強化・重点化等の取組状況

- 新型コロナウイルス感染症1日45万人、季節性インフルエンザ1日30万人、合計75万人の新規感染者が発生する可能性を想定し、限りある医療資源の中でも高齢者・重症化リスクの高い方に適切な医療を提供するため、10月13日(木)に「新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応」を公表し、保健医療体制の強化・重点化を進めている。
- 新規感染者数が足元で全国的に増加傾向にあり、今後、急速な感染拡大も想定される中で、以下の取組を重点的に進めていく。

<各都道府県における外来医療体制等の強化・重点化>

- 10月17日(月)に都道府県等に対して説明会を行い、「外来医療体制整備計画」を策定の上、11月中に、発熱外来や電話診療・オンライン診療体制の強化、健康フォローアップセンターの拡充、発熱患者等の相談体制の強化等、地域の実情を踏まえた必要な外来医療体制等の強化・重点化を行うように依頼。
11月14日(月)中に厚生労働省に計画案を提出いただき、支援が必要と考えられる都道府県があれば課題を具体的に伺い、必要な助言、支援策や好事例の紹介などを行うことにより充実を図る。

<オミクロン株対応ワクチンの早期接種>

- 9月20日(金)から、オミクロン株対応ワクチンの接種開始。
10月21日(金)から、最終接種からの接種間隔を3か月以上に短縮し、約1億人の方が年内にオミクロン株対応ワクチンの接種を受けることが可能となった。
自治体等とも連携して、年内に接種を希望する全ての対象者がワクチン接種を受けられるよう必要な体制を整備する。
- 各省庁から所管団体等に対し、11月4日(金)から接種促進の呼びかけを行うなど、ワクチン接種促進に向けた周知広報や働きかけを実施していく。

(参考1) タスクフォースにおける取組

- 国民各位への情報提供と重症化リスク等に応じた外来診療・療養の流れへの協力の呼びかけを迅速かつ効果的に実施できるよう、関係団体・学会等の参画を得て、「新型コロナ・インフル同時流行対策タスクフォース」が10月13日（木）に発足。

このタスクフォースにおいて、国民に対し感染状況に応じて具体的な呼びかけを行っていくため、3種類のリーフレットを作成し、10月28日（金）に公表。

(参考2) ワクチン等の確保状況

- 上記リーフレット等でも、「ワクチン接種」「新型コロナ抗原定性検査キット」、「解熱鎮痛薬」について、国民に早めの接種・購入、電話相談窓口などの連絡先の確認を呼びかけるとともに、以下のとおり、必要な準備を実施。

【ワクチン接種】

- ・オミクロン株対応ワクチン
 - ・年内に約1億回分（今週までに約8,000万回分）を配送予定。
- ・インフルエンザワクチン
 - ・過去最多となる約7,000万回分を確保し10月から順次接種開始。
 - ・10月中に約6,300万回分を出荷済み。11月中に全て出荷完了予定。

【新型コロナ抗原定性検査キット】

- ・メーカーの在庫量は、コロナ検査キットが約2.3億回分、インフルエンザとコロナの同時検査キットが3,900万回分。
- ・メーカーの製造量、出荷量、在庫量を把握するため、毎週定期的に調査を実施中。
- ・今夏の感染拡大時に自己検査用として国から都道府県に約2,400万回分のコロナ検査キットを配付。その未使用分も活用し、今冬に向けて可能な限り有症状者等に多くの量を配付できるよう、体制整備を都道府県等に要請済。
- ・高齢者施設等の従事者等に対する集中的検査の推進を図るため、特例的に、国から都道府県等に対して、約8,500万回分のコロナ検査キットを10月21日から配付開始。

【解熱鎮痛薬】

- ・解熱鎮痛薬について、ピーク感染時も想定し、医療用と一般用（OTC）の両方とも必要な在庫量を確保。